



「障児と健児が交流する機会を持ちたい。それが障児に対する理解を深めるきっかけになるはず。」  
福岡県肢体不自由協会(会長・天児民和)と父育教室の長年の願いが、このほど宗像郡志海町の県少年自然の家で開催された寮早キャンプで実現した。同協会は三年前から毎年、海辺のキャンプを実施しているが、今年には中間青年会講師(金元盛隆理事)が同率してきざママーソールの小学生約百人と一緒に行動し、例年とは一味違った三泊四日の楽しいキャンプになった。

# 海で知った、思いやり

## 小学生が障害児とキャンプ

☆ ☆  
年に一度の楽しみ  
海の寮キャンプに参加したのは福岡市をはじめ北九州、太田、大野城を県下各地で、在宅しながら養護学校などに通う小学生から中

から福岡大肢不自由児教育 初が園辺松林での度福成し  
義成課程(九州リハビリター 大会、二日目が海水浴と野外  
シヨク大校、北九州小倉 料理、そして締めくくりにキ  
ンキャンプ)の生ら約六人が本  
ランティヤ活動で参加、マン  
ソーマンが活躍し、在籍生  
統括して、  
☆ ☆  
自発的に手伝い  
寮早キャンプに参加した福  
中間市の小学生は昨年、 野添博貴(甲)福岡市吉塚中

## ふれあい理解へ

### 初対面でも和気あいあい

学年までの肢体不自由児約 同自然の家あったグループ 三泊二日は「最初顔合わせ  
五十八年に一度の楽しみ」 交流会で寮早キャンプ中の障 った時、昨午会ったメンバーが  
とあって、毎年参加する常連 児と出会った。そこで「来 普見と出会った。そこで「来  
組も多い。 年はスケジュールを合わせて 本格的に交流しよう」と確認  
寮早キャンプでは、障児 自立心を待たせ始め、親 しあったという。 キャンプのスケジュールは、プが準備してこつたの

身近な存在に感じる  
中間青年会講師の野野男  
さんは「自然に囲まれている  
気安さもあるのか、子供たち  
は、大仲良しになりました。こ  
く自然に障児見慣れたいや  
常規児の姿を見て、何よりも  
感動のたもと思ひます」と感  
動の面持ち、フナレシのキ  
ャンプフアンターでは、デイス  
コダンスも飛び出し、交流は  
最高潮に達した。

キャンプに参加した子供た  
ちは一様に「楽しかった」。  
ボクンティアの一人、福岡大  
Bは、短い時間の交流の中で、  
健児が十分に障児を理解  
できたとは思わない。でも、  
今まででは遠く存在した障  
児を、身近に感じることが  
できたのは大きいと語っている。  
また、県肢体不自由協会の  
中村理事局長は「初めての  
試みで不安があったが、大成  
功だった。今後もしつた機  
会をぜひどんどん増やしてい  
くと考えている」。

障児の強い日差しと青い海  
が、けりきつたあわかな雑れ  
合い、小さなながらも、障  
児理解への確かな教となり、  
輪となって広がっていくに違  
いない。

## 福岡県肢体不自由児協



中間の小学生と一緒に準備した度福成し

班に分かれ、お互い  
に化粧衣に工夫  
を凝らす。お化けの  
面をつけて稽かじっ  
「悲鳴と歓声が飛  
び交り、初対面の児  
童たちの距離も一気  
に縮まった。  
二百目の飯(ごう炊  
きたむらりライナス  
とチヂミ)と、  
イヤとイヤと持ったごう  
い」という障児たちも、車  
イスに座って、きびしい手  
つき職員にシカイモの皮  
むき、そばで見ていた中間  
の生徒が「おうよ」と  
声を押したのを皮切りに、障  
児の脚も「おうよ」  
キギの「おうよ」  
注々味はごうかあ「  
飯が持つてきて、大丈夫だ  
弾んだ。